

中流住宅の平面構成に関する研究

第 1 6 報 同時期建設の平面事例における発展段階の差異について - 明治専門学校

- 正会員 青木 正夫*1 同 竹下 輝和*2 同 磯貝 道義*3 同 友清 貴和*3
- 同 宮里 義文*4 同 中園 真人*6 同 宮崎 信行*5 同 岡 俊江*5
- 同 秋元 一秀*5 同 川崎 光敏*5 同 川島 浩孝*5 同 長嶋 洋子*5

はじめに

前報までは、地域別・事業所別の諸事例をいわば通史的に考察し、発展段階の差異を検討してきたが、本報では明治専門学校の事例をもとに、同時期における発展段階の差異を検討する。現象としては、無秩序とみえる多様なプランが、本質的には中廊下型平面構成に至る諸問題解決の試行錯誤を示しており、発展段階の差異であることを実証する。

1 明治専門学校官舎の概要

明治専門学校は、明治42年に私学として創立された学校である。現在は九州工業大学(国立)となっている。明治42年の創立時に、「いい教授を招くためにはいい住宅が必要である。」との認識から、43棟の官舎(当時は役宅と呼ばれていた)が建設された。そのうち、教授層を対象とした一等官舎12棟は、各人の希望を採り入れて設計されたものである。(注)

2 一等官舎における発展段階の差異

図-2は、北面端部に設備が集中した未完成の北入り中廊下型平面である。来客の便所や浴室への動線は、中廊下によって処理され、室を通り抜けることはない。同様に、女中の湯茶や取次ぎなどのサービス動線も、室を通り抜けることはない。ただ、各の便所・浴室への動線が不必要に長く、家族生活空間の領域に侵入している点で未完成である。

これに対して、図-4は便所が2ヶ所に分散しているうえに、座敷には次の間(前室)がとられ、きわめて初期的な発展段階を示すものである。

さらに図-6は、分散した便所配置の状態。動線処理のために廊下をはりめぐらしのようなプランである。この動線処理が女中のサービス動線処理であることは、個々の室が独立化していない点からみて明らかである。

以上の3プランを比較しただけでも、同時期にこれだけの差異がみられるこ

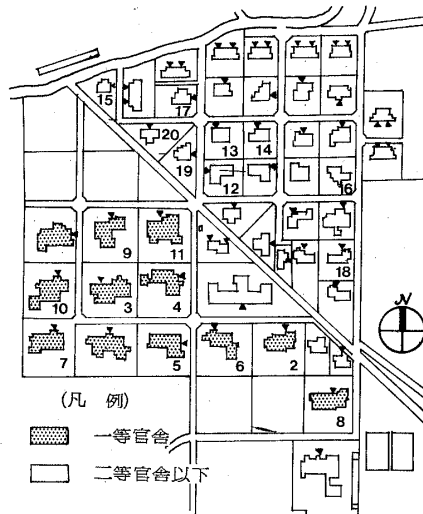


図-1 官舎配置図

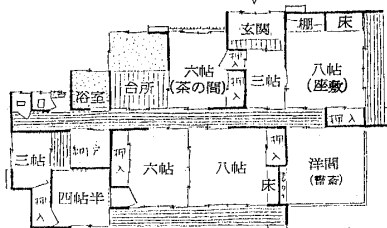


図-2 明治専門学校

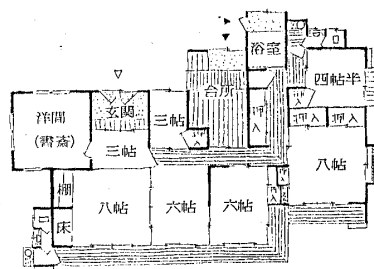


図-3 明治専門学校

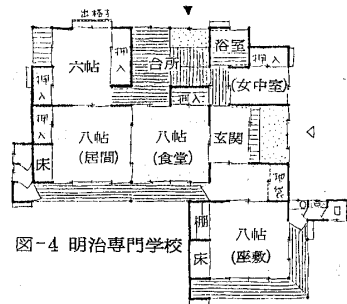


図-4 明治専門学校

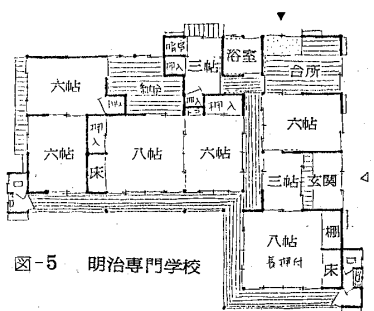


図-5 明治専門学校

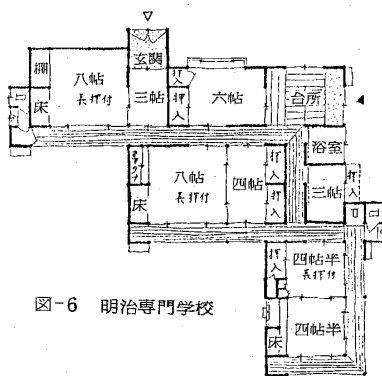


図-6 明治専門学校

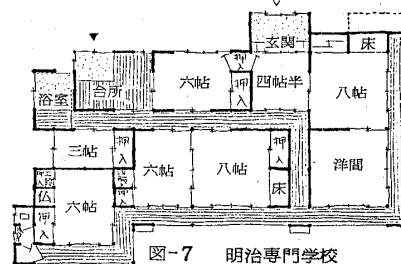


図-7 明治専門学校

A Study on the Planning of Middle-class Houses

Pt.16 The Difference of the Developmental Process by Cases of Housing

Plan Built at the Same Time - Meiji College of Technology

AOKI Masao et al.

とは注目されるべきである。

次に、図-8と図-9はいずれも設備が集中しているプランである。前者は茶の間と4帖の部屋の通り抜けの問題が解決されていない点で、最初にあげた未完成の中廊下型平面の前段に位置づけられる。しかし、後者は設備が集中しているとは言え、前者とは本質的に異なるプランであり、試行錯誤を示す好例と言える。

さらに図-10と図-11は、女中のサービス動線を確保される段階を示すプランである。前者では女中が老人室に取次ぎなどをする場合、部屋を通り抜けねばならない。後者ではこの問題がタテ中廊下の発生により解決されている。

以上とりあげた事例は、いずれも居住者の要望を反映したプランである。その要望の主たる要点は、来客や女中の動線を家族生活空間から排除することであり、その排除のために中廊下が発生していることは明らかである。

図 二等官舎以下における発展段階の差異

図-12、図-13、図-14は、それぞれ発展段階の差異を示している。まず図-12は、来客の座敷への動線が次の間を経由する、いわゆる次の間経由型であり、図-13は座敷に直接出入りできる、座敷直入り型である。さらに図-14は、女中や宿泊客の茶の間通り抜けの問題が解決されているプランである。

次の図-15と図-16も発展段階の差異を示す例である。図-15では、浴室への動線が3帖の女中室を通過せざるを得ないが、図-16では、中廊下が形成されて浴室への動線が確保されている。

最後に図-17以下の事例は、女中室を持たない例であるがやはり発展段階の差異とみなしうる。図-17は次の間経由型である。図-18も基本的には次の間経由型の平面構成であるが、北側の縁づたいに客を導きうる点で改良されたプランである。また便所の位置も工夫されている。

図-19と図-20は、設備が集中して、来客の茶の間通り抜けを排除する中廊下が形成される段階の差異を示している。

なお、二等官舎以下のプランにおいては、中廊下を持つプランはまわめて少ない。これは床面積を制限された結果と考えられる。

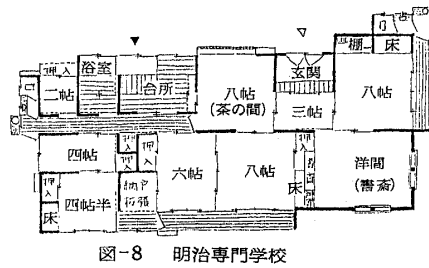


図-8 明治専門学校

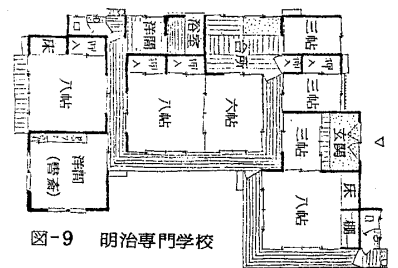


図-9 明治専門学校

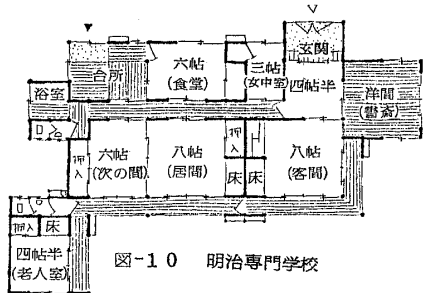


図-10 明治専門学校

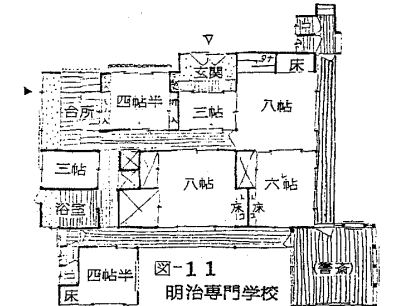


図-11 明治専門学校

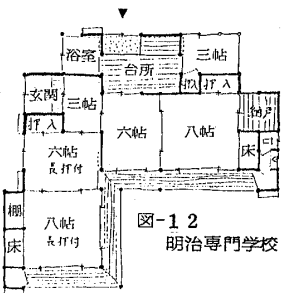


図-12 明治専門学校

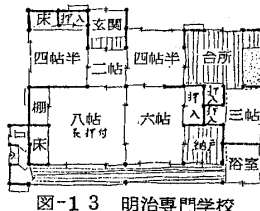


図-13 明治専門学校

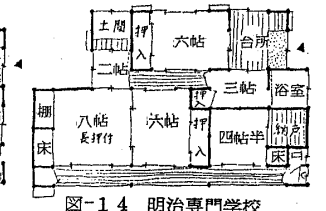


図-14 明治専門学校

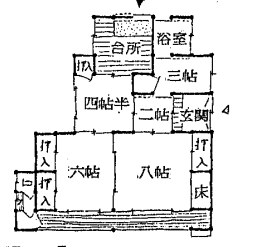


図-15 明治専門学校

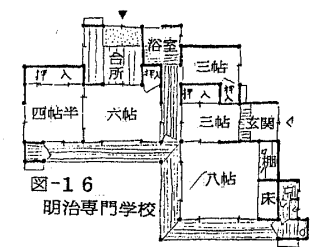


図-16 明治専門学校

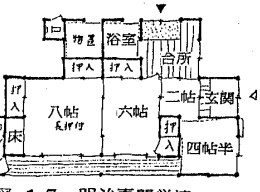


図-17 明治専門学校

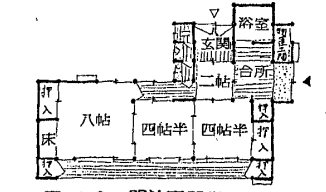


図-18 明治専門学校

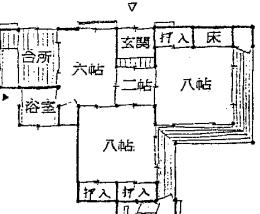


図-19 明治専門学校

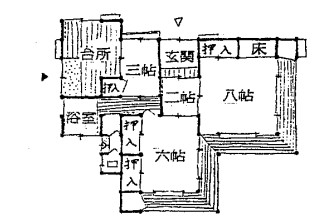


図-20 明治専門学校

「明治専門学校史」 明治専門学校 大正11年
開業五十周年記念「五十年」九州工業大学 昭和34年
*1九大教授・工博 *2同講師 *3同助手 *4同技官 *5同大学院生 *6大分大助手